

時・人・モノ 流れでつながる6つのストーリー

4 みりんや水運で栄えた流山本町

徳川幕府により、江戸川の開削・改修が行われ、江戸川は各地の物資を江戸に運ぶ重要な交通路となります。流山・加には河岸ができ、江戸時代中頃になると、周辺からの物資の集積地となり、また豊かな水資源と米の生産地を活かした醸造業が発展し始めます。そして、江戸時代後期に2代堀切紋次郎と5代秋元三左衛門が白みりんを開発すると、「流山の白みりん」は江戸前の食文化の発展に大きな影響をあたえ、大いに発展しました。

明治初期には、流山本町に県庁が置かれ、裁判所や教員養成学校、小学校が設置される等、行政の中心地にもなりました。

水運とみりんで栄えた流山本町には、現在も当時を偲ぶ神社、寺院、建物が濃密に遺っています。

構成文化財

<指定文化財>

県指定文化財 有形の民俗文化財 流山の味淋醸造用具

市指定文化財

有形文化財 建造物 赤城神社本殿 呉服ましや土蔵 流山2丁目閻魔堂 富士塚

絵画 紙本著色日蓮上人像

彫刻 流山2丁目閻魔王坐像

歴史資料 流山小学校瓦 流山小学校額

民俗文化財

有形の民俗文化財 流山3丁目庚申講関係資料

無形の民俗文化財 大しめ縄行事 赤城神社の社叢林

記念物 遺跡 小林一茶寄寓の地

植物 光明院のタラヨウ 赤城神社社叢林

国登録有形文化財 新川屋呉服店 笹屋土蔵 旧寺田園店舗 清水屋本店

秋元家住宅土蔵

みりんや水運で栄えた流山本町



図 20 流山本町関連文化財位置図

4 みりんや水運で栄えた流山本町

ストーリー固有の方針

本市の観光振興の目玉地区として、官民一体となって流山本町の歴史・文化財へ保存・活用を図っていきます。

課題

- ・地区内に遺る文化財の保存を図っていく必要があります。
- ・新選組陣屋に建つ秋元家住宅土蔵の修理・整備・公開を図っていく必要があります。
- ・一茶双樹記念館の保存・活用を進めていく必要があります。
- ・地域の伝統行事の継承を図っていく必要があります。
- ・流山の白みりんの周知を図る必要があります。
- ・地域に残る文化財の周知を進める必要があります。
- ・地元と協働して文化財群を守る取り組みを進めていく必要があります。
- ・地域の伝統行事を継承していく必要があります。

方針

- ・地区内に遺る文化財の市指定・登録を進めていきます。
- ・地区内に遺る文化財の文化財認定を進めていきます。
- ・秋元家住宅土蔵の修理・整備・活用を図っていきます。
- ・一茶双樹記念館の保存・修復や展示公開を進めていきます。
- ・白みりんの歴史について周知を図っていきます。
- ・文化財看板や周遊コースの整備を図っていきます。
- ・DMO や観光協会との協働や文化財ガイドの育成を進めていきます。
- ・地域の伝統行事の継承を進めていきます。

保存と活用に関する措置

番号	措置	取組	取組主体					取組年度							
			市 民	地 域	団 体	専 門 家	行 政	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
1 (1) (2)※	文化財指定・登録 《重点事業》	地区内に残る文化財の市指定・登録を進めていきます。	○			○	◎								
2 (3)	認定文化財	認定を進め、文化財の価値を高めていきます。	○	○	○	○	◎								
3 (4)	秋元家住宅土蔵の整備 《重点事業》	建物の保存・修復を行い、展示・公開施設として整備を行います。				○	◎								
4 (5)	一茶双樹記念館の整備	建物の修復や俳句・みりんの歴史についての展示・公開を進めます。				○	◎								
5 (24)	白みりんミュージアムとの連携	流山白みりんの価値の向上や情報発信を連携していきます。	○	○	○	○	◎								
6 (30)	文化財説明板・案内板の作成	本町の文化財周遊を充実させるための看板・案内板の作成を進めます。	○	○			◎								
7	地域との連携	DMO や観光協会との協働事業や文化財ガイドの育成を進めます。	○	◎	◎		◎								
8	伝統行事の保存・継承	伝統行事の記録保存や人材育成を図っていきます。	○	◎	◎	○	○								

※括弧内は第8章の取組番号